

アユの資源状況について

1. 資源調査

(1) 琵琶湖への流下仔魚数 (H27) (億尾)

天然河川	人工河川	計	平年値	平年比
195	23	218	255	86%

(2) 稚魚調査での採捕尾数 (H27)

- ・ 10 月は 769 尾／曳網で平年比 748%、11 月は 70 尾／曳網で平年比 113%、12 月は 14 尾／曳網で平年比 50%となりました。

＊ 10 月から 12 月に毎月 1 回、新月の頃に調査します(アユが表層に集まるため)。
また、本調査で用いる曳網は、アユが成長するにつれて遊泳力が高まり採集されにくくなる特性があります。11 月以降に採集尾数が減少したのはアユが成長に伴い採集されにくくなったことと、産卵時期が前期に偏ったため本調査の対象となる小型のアユが少なかったことが影響したものと考えられます。

- ・ 採捕されたアユ稚魚のサイズは、調査日の近い年と比較すると 10 月から 12 月すべての調査で大きめであり、特に 12 月は過去 10 年間で最大であったことから、アユの生育は順調であると思われます。



図 1 調査水域

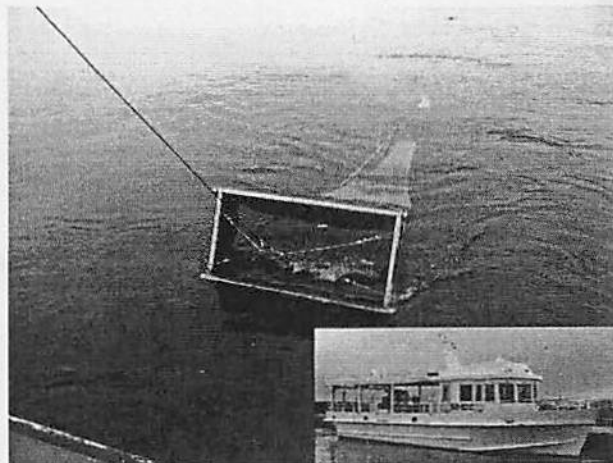


写真 1 調査に用いる曳網と琵琶湖丸

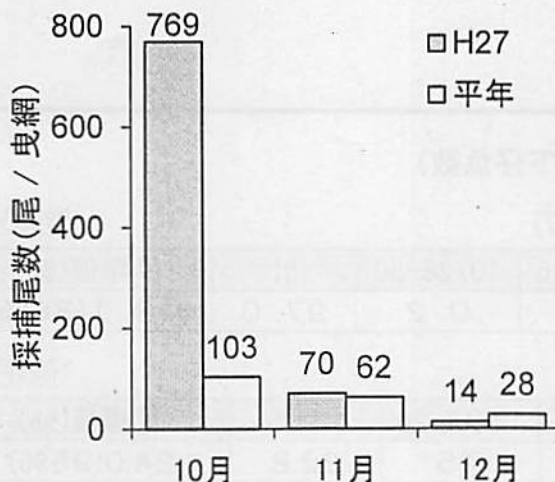


図 2 採捕尾数の推移

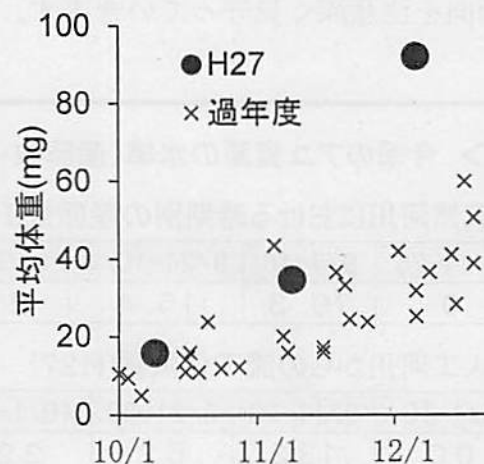


図 3 調査日と平均体重の関係

2. 早期アユ苗の漁獲状況 (H27)

(1) 漁獲量

- ・ 12月1日に始まったエリ漁によるアユ苗の早期漁獲は順調に推移し、12月8日までに注文量の約23トン(23,000kg)を漁獲して終了しました。
- ・ 荒天が続いたにもかかわらず順調に漁獲されました。

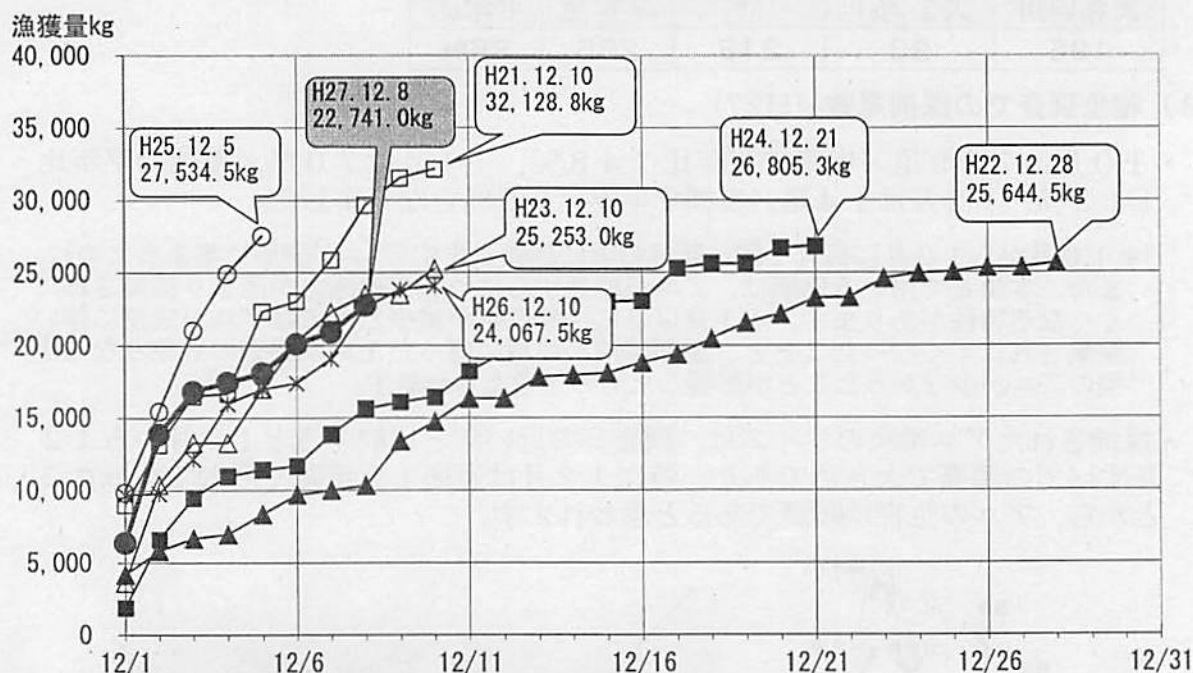


図4 早期アユ苗の累積漁獲量

3. 資源状況

琵琶湖への流下数、稚魚調査による採捕数、早期漁獲量から総合的に判断すると、本年のアユ資源は平年並みと思われます。

4. 今後の調査計画

- ・ アユの資源状況については、魚群数や漁獲状況、体型などの調査を行い、資源動向を注意深く見守っていきます。

<参考> 今季のアユ資源の水準(産卵数・流下仔魚数)

(1) 天然河川における時期別の産卵数(H27)

〈億粒〉

8/24-26	9/7-16	9/24-10/1	10/9-16	10/28-30	計	平年値(%)
0	79.3	15.4	2.1	0.2	97.0	113.1(86%)

(2) 人工河川からの流下仔魚数(H27)

〈億尾〉

9/1-10	9/11-20	9/21-30	10/1-10	10/11-20	計	目標値(%)
0.0	13.3	6.2	2.9	0.5	22.8	24.0(95%)